

## 三田市議会市民との意見交換会 実施報告書

意見交換会名	三田市議会報告会 お聞かせください“みなさんの声”	班名	2班
開催日時	令和4年4月24日(日) 午前10時～午前11時		
開催場所	市役所6階 委員会室		
出席議員	(班長) 佐貫 (副班長・司会) 大西 出席議員：今北、美藤、白井、水元、林		
参加人数	6人		
実施概要 (テーマ・報告内容・進行等)	◆議会報告 ①令和4年度予算審査報告 ②意見・提案に係る議会見解報告 ◆意見交換 ・予算審査報告について ・事前提出意見・提案について ・その他意見について		
主な意見・要望・提案 (意見交換の内容)	【事前提出意見・提案についての議会見解】 Q・農業従事者の高齢化・耕作放棄地の拡がり・新規就農の困難など、農業を取り巻く環境は一層厳しさを増している。三田市においては、学校給食に早くから三田米を導入するなど、地産地消に力を入れてきた。未来を担う子どもの健全な育成と、環境保全という観点からも、農薬や化学肥料を使わない有機農業は大切である。学校給食に有機食材導入は、子育て世代の移住促進・半農半Xなどの小規模有機農家を活性化するといったことにつながる。輸入に頼る日本では、農薬・化学肥料も輸入に頼り、昨年より高騰を続けており、有機農法のほうが経費負担軽減になるというデータもある。有機農業支援と学校給食で有機食材の使用についてお伺いしたい。 A・有機農業は化学肥料及び農薬の使用を避けることを基本とした環境負荷の低減にも寄与する農法と認識している。有機農業の推進には地産地消等により消費量を拡大し、生産量を増やし所得が安定することで、担い手を増やすという好循環を生み出す必要がある。そのためにも、農業を始めやすいよう就農時のハードルの一つとなっている農地を借りる面積要件の緩和や、有機農業実践者の成功体験等を語っていただく各種研修会の開催による就農者の拡大を図っていくとともに、有機農産物の安定した出荷先が確保できるようJA等と連携しながら、支援をしていきたい。 ・学校給食においては、安全な食材を学校給食に提供するため、JA学校給食部会の協力のもとエコファーマー認定生産者による低農薬の食材(玉葱・じゃがいも・キャベツ・白菜・大根・人参)を生産いただくとともに、米飯の全てを三田米で、その他に三田の特産品や地場野菜を積極的に取り入れ地産地消を推進している。学校給食での有機農産物の使用については、学校給食に適した食材の必要量(1日1万食)の確保が重要であり、その価格などを踏まえた上で検討する必要があることから、教育担当部局と農業担当部局が連携を図りながら、調査研究を進めたい。		

Q・市内で、出産可能な病院は、市民病院のみであり、若い人や、里帰り出産もできない市となり、人口減に拍車がかかり、現にコロナ禍もあり市民税はマイナス 3.3%、法人税も 1.6%マイナスと、市長は説明していた。C ブロック地区駅前再開発事業で多額の市税を投入するのであれば、市民病院の補修費は投入できる。ましてや病院の減価償却は 39 年。築 26 年の市民病院は老朽化ではない。

A・三田市民病院は、市内で唯一、出産ができる病院であるが、現状でも、合併症などハイリスク出産は済生会兵庫県病院にお願いしている。医師確保も含め、済生会兵庫県病院との連携により、妊婦や新生児の受け入れを行う周産期医療において、市民の皆さんがより安心して妊娠・出産できる環境が充実すると考える。

・三田市民の生命を守る急性期医療を維持・充実するために、改革プランに示す医療資源の集約化を進めることは、安心・安全の医療提供の一つと考えている。

・減価償却が 39 年との指摘であるが、これは経理上のことであり、建築物が築後 26 年経過していること自体、老朽化が進んでいることに間違いはない。現時点では業務に支障をきたすような大規模な事象は発生していないが、経年とともに設備の劣化が進行し、小規模な水漏れ、蒸気漏れ等は断続的に発生している状況である。

・三田市議会としては、4 月 13 日に市民病院あり方特別委員会において、「北神三田地域の急性期医療の確保に関する検討委員会」の方針説明を受けたところであり、今後、神戸市・三田市・済生会兵庫県病院の三者で、再編統合に向けた進め方が協議されるので、市議会としても、市民医療の重要案件と位置付け対応したい。

**【事前提出意見・提案についての再質問】**

●有機農法について

Q・ドローンでの農薬散布に予算がついているが、強い農薬を散布することで周囲への影響も懸念される。有機農業推進の考えから同じ予算でたい肥場をつくる等有機農法の推進はできないか。また学校給食に有機野菜を取り入れることはできないか。

A・現在のラジコンヘリでの農薬散布についても周辺住民の同意は必要で風の強い日は行わない。有機農法の推進については JAS 規格をとるには書類も膨大で農家も 4 人と少ない。低農薬のひょうご安心ブランドの活用など皆様と共に取り組んでいく。

・学校給食での有機野菜取入れについては、現状では有機農家が少なく三田市の学校給食を賄うには量的な問題があるが、栽培農家を増やす取り組みは必要と考える。

Q・三田市の農業認定の面積は 30 アールだが神戸市等 10 アールの市もある。過去の議会で面積要件を下げることに前向きな副市長答弁もあったが、今後の進捗についてどう考えているか。

A・農業認定については以前 5 反からであったが、現在は 3 反からである。国が大規模農家の支援を進める中、三田市の独自予算で小規模農家支援策である農機具購入補助事業も始まった。面積要件の進捗については引き続き所管常任委員会の中でも議論していきたい。

●市民病院について

	<p>Q・三田市民病院はウッディータウンだけではなく市民の命を守っている。市民病院と済生会兵庫県病院の統合、そして新病院建設は三田市にとって大きな財政負担となる。病院はまちづくりの根幹でもあるので現在地での建設を希望したい。</p> <p>A・検討委員会からの報告書は、検討委員会として統合が望ましいという意味である。それを元に市がどのようにしていくかについては、今はまだ何も決まっていない。市からの提案があった後、市民のために何が一番良いのかを議員として考えていくことになる。</p> <p>【その他の意見】</p> <p>Q・奈良県出身で勤務地が三田市だったので三田市に引っ越してきた。三田を活性化させるのに工場誘致は有効だと考える。十数年前子どもの医療費は無料だった。今後の子育て世代の呼び込みため、子ども手当を三田市独自で行うなど子育て世代の転入促進について伺いたい。</p> <p>A・子どもの医療費については、コンビニ受診もあったと聞いているが数字は定かでない。子育て世代の転入促進としてはフラワータウンへの支援を試験的に始めてようとしており、空き家対策で子育て世代を呼び込みたい。こうみん未来塾は参加者も順調に伸びている。学びのまち三田として、子育て支援策は三田市全域に広めていくべきだと思う。</p>
--	--

令和4年4月28日

議会改革推進会議委員長 様

上記のとおり、実施いたしましたので報告します。

班長 佐貫 尚子